

論点1

歩行者空間の創出

歩行者空間の創出の取組の進め方

歩行者空間創出の政策目的（案）

- 快適でゆとりある歩行者空間を創出することで、成熟都市としての魅力を高める。
- まちづくりと連携し、歩行者の増加と交流を促進し、まちの賑わいを創出することで、生活の豊かさ、楽しさが実感できる。

背景・現状・課題・目標 (案)

背景

- ◇ 2020年大会に向け、国内外の来訪者が増加
- ◇ 成熟社会・高齢社会の到来
- ◇ 主要幹線道路の整備進展により、通過交通が減少

現状

- ◇ 区市等が取り組んでいるが、各管理者等との調整に課題
- ◇ 歩行者空間が連続しておらず回遊性に乏しい
- ◇ 空間の質を高めるデザインの創出に向けた取組の不足

課題

- ◇ 大会までに、象徴的な場所において創出が必要
- ◇ 大会後も見据え、区市等の取組を支援・促進する仕組みの構築が必要
 - ・ 交通・道路管理者等との課題の共有による協議の推進
 - ・ 補助制度の新設等継続的に事業実施を支援する枠組みの構築 等

目標

- ◇ 内外の来訪者数や滞在時間の増加、回遊性向上により、まちの賑わいを創出
- ◇ 外出頻度が高まる等により、高齢者をはじめとした誰もが生活の豊かさを実感でき、健康増進にも寄与
- ◇ 裏通り等への新たな人の流れの創出による地域価値の向上
- ◇ 交通の安全性の向上。既存サインの統廃合等による景観の整序



都が主導しモデル地区で歩行者空間の創出とネットワーク化を推進

- ◇ 都として創出する歩行者空間のコンセプトを設定し、地勢、観光、歴史・文化などの地域特性や波及効果等を考慮し複数のモデル地区を選定する。
- ◇ 2020年大会までの間に、地元区市、交通・道路管理者等や地元関係者とも連携して東京都がモデル地区における調査・計画作成を行い整備を推進する。

施策展開の方向 (案)

都市分析

地勢/交通・移動実態/歴史・文化的背景/土地利用現況 等



地元区市等の意向も踏まえながらモデル地区の選定



歩行者空間計画

- ・交通シミュレーション
- ・駐車場・荷捌き計画
- ・緑・アメニティ等環境設定 など

サインの高質化

- ・既存サイン等の把握と統廃合の調整
- ・サインの内容検討・配置計画
- ・統一サインデザイン など

空間整備

- ・車止め、ハンプ、段差解消
- ・路面のカラー舗装
- ・照明設備整備 など

にぎわいの創出

- ・オープンカフェ、ベンチの設置
- ・マルシェ、イベントの実施 など

取組PR

- ・戦略名称やロゴの設定
- ・ホームページの設置 など



地元区市等・関係団体との連携

- ・交通管理者、道路管理者との協議・連携
- ・エリアマネジメント団体との連携



事業実施体制 (案)

決定機関

東京都

- ・コンセプト及びモデル地区を決定
- ・空間整備に関する補助の新設等により、区市等の取組を支援

助言

<アドバイザー会議>

- 【構成】
- ・学識経験者
 - ・道路・交通管理者 等
- 【役割】
- 交通安全等の専門的観点から助言

区市等

東京都と一体となって
地元調整等を実施

協働

歩行者空間計画

サインの高質化

にぎわいの創出

空間整備

取組PR

関係団体との連携

調査計画実施 機関

歩行者空間創出パートナー

各事業等のコーディネート、全体PR、情報提供



スケジュール (案)

歩行者空間創出パートナーの選定

平成28年4月～10月

社会実験の試行等により課題把握、
基本的な創出手順検討
モデル地区の選定

平成28年内

交通戦略のとりまとめ(戦略の策定、モデル地区の決定等)

～2020年大会まで
(平成32年度)

各モデル地区で調査・計画作成を行い順次整備実施